



S H I R A K A W A

町議会とあなたを結ぶ広報紙

しらかわ 議会だより

No.219

2026年2月1日

第4回定例会

条例改正・補正予算など、13議案を可決



第4回定例会	2
まちの課題を問う 一般質問に5人が登壇	4
議会活動報告	9
議会の動き・表紙は語る	14



白川町議会ホームページ

補正予算・条例改正など13の議案を可決



令和7年第4回定例会を、昨年12月11日と12日の2日間にわたって開催しました。

今定例会では、5人の議員が一般質問を行い、町政の課題等について質問したほか、令和7年度補正予算や条例の改正など町長提出の9議案と議員発議による条例・議会規則の改正など4つの議案を審議し、いずれも議員全員の賛成により原案のとおり可決しました。

条例の一部改正（5件）

▼白川町常勤の特別職職員の給与に関する条例及び白川町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正

▼白川町職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告の内容に準じ、特別職の職員及び議会議員の期末手当について、一般職の職員の給与について所要の改正をする。

▼白川町収入印紙等購入基金条例の一部改正

岐阜県証紙条例の廃止に伴い、岐阜県収入証紙の販売が終了すること等により、所要の改正をする。

▼白川町営単独住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

町営住宅赤河団地の2階を世帯用から単身用に用途変更することに伴い、住宅の管理戸数に変更が生じるため、所要の改正をする。

▼白川町議会の個人情報保護に関する条例の一部改正

情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るため

のデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律の施行等に伴い、所要の改正をする。

議会規則の改正（2件）

▼白川町議会傍聴規則の全部改正

新庁舎への移転及び最近の社会情勢の変化に対応するとともに、開かれた議会の実現に向けて、所要の整理を行う必要があるため、その全部を改正する。

ここがポイント！

①傍聴人の定員

議場の広さの関係上、新庁舎の定員は、10人となります。

②水分補給が可能に

これまで議場内では飲食ができませんでしたが、体調管理のための水分補給（水又はお茶に限ります）が可能になりました。

③傍聴の受付

「傍聴人受付簿」から年齢の欄を削除しました。なお、受付の際は、住所と氏名の記入が必要です。

▼白川町議会会議規則の一部改正

議会のICT化を目的として、情報通信端末機器の会議における使用について規定するため、所要の改正をする。

その他

▼定住自立圏の形成に関する協定

より快適で幸福な暮らしの実現に必要な都市機能と生活機能を強化するため、美濃加茂市と定住自立圏の形成に関する協定を締結するため議決する。

▼町道路線の認定

道路整備に伴い、町道路線の一部を再編成するため、次の路線を町道路線として認定する。

六呂山線（町道水穴線から町道上赤河線まで）

▼簡易水道基盤強化のための令和8年度予算確保を求める意見書

持続可能な簡易水道を整備・運営するため、国会をはじめ政府機関に令和8年度予算編成にあたり特段の配慮をお願いするため、意見書を提出する。

令和7年度 補正予算

会計区分	補正予算額	補正後の予算総額
一般会計（第4号）	8,900万円	85億7,200万円
介護保険特別会計（第2号）	700万円	11億9,140万円
簡易水道事業会計（第2号）	1,100万円	10億3,100万円



主な内容

（一般会計）

▼総務費

・ふるさと納税額の増加に伴う返礼品、事務処理手数料
1998万円

▼民生費

・児童手当事業
246万円

▼衛生費

・簡易水道事業会計繰出金
550万円

・リサイクルステーション整備事業費補助金
200万円

▼農林水産業費

・緊急銃猟関連費用
50万円

・中山間地域農業生産基盤整備促進事業補助金
412万円

▼商工費

・道の駅経営改善応援金
300万円

▼土木費

・住宅管理事業（修繕料）
110万円

▼教育費

・給食センター敷地内修繕工事
590万円

▼災害復旧費

・農地農業用施設災害復旧事業
1330万円

・公共土木施設災害復旧事業
200万円

（介護保険特別会計）

・介護予防・生活支援サービス事業
650万円

（簡易水道事業会計）

・原水及び浄水費（水質検査委託料）
110万円

・配水及び給水費（水道施設等修繕量）
593万円

主な質疑

問 道の駅経営改善応援金は、毎年行つものなのか。

答 道の駅のリニューアル前までを想定しており、令和7・8年度の2か年での応援を予定している。

問 ※緊急銃猟の対象は。

答 危険鳥獣に指定されているクマ、イノシシに限られ、イノシシは、成獣しか対象とならない。

問 緊急銃猟に対する準備状況は。

答 市町村はマニュアルを策定することとなっており、白川町猟友会に協力をいただきながら、現在、策定をしている。

※緊急銃猟とは

人の生活圏内（住宅地等）にクマ、イノシシが出没した場合、一定の条件を満たしたときに、市町村が銃器を使用して捕獲等ができる制度

まちの課題を問う

一般質問

5人の議員が登壇

一般質問の様子が、
YouTube(動画配信サイト)
でご覧いただけます。



梅田みつよ 議員



医療・福祉法人の 対策について

医療・福祉業界は、大幅な賃金アップについていけず苦境を強いられている。ケアマネジャーにおいては、僻地ではケアマネゼロ地帯、都市部では数ヶ月待ち地帯が発生している。

こういった社会の状況を踏まえて介護保険制度を例に質問する。

図 介護保険制度の給付対象事業の内、自治体ごとで報酬単価を決めるものはあるか。

答

長尾保健福祉課長

国の定める単価が基本となり、自治体独自で単価を決められるものはない。

図 介護保険制度の給付対象外事業あるいは施策で独自に報酬を決められるものはあるか。また、その見直しは行われてきたか。

答

長尾保健福祉課長

委託事業はいくつかあるが、これまで委託料や交付金を見直していない。

図 法人運営も厳しくなっており、人件費や物価の高騰を踏まえ、見直しを検討するべきではないか。

答

長尾保健福祉課長

厳しい状況を踏まえ、令和8年度に見直し改定を検討していく。

図 人材の担い手の確保は待ったなしである。飛騨市のように具体的な施策や方針を考えていくべきではないか。

答

長尾保健福祉課長

町として非常に大きな課題であると認識している。来年度に向けて医療・介護福祉分野の就職奨励金を計画する。

図 社協サンシャインのショートステイは人材不足により一時的に20床から10床に減らしている。縮小案が出た場合、保健福祉課と社協の二者で決定するのではなく、関係する近隣市町村の事業所を集めてきちんと協議の機会を持つべきではないか。

答

長尾保健福祉課長

早期に情報収集を行い、適切に共有することが重要である。事業縮小の方針が検討される場合は、介護保険等運営協議会において案を諮り、関係者で議論を深め将来の対応方針を検討していく。

これからの学校の制服について

制服やジャージは長い歴史を育んできた。当事者や保護者にとって大事なことであるため、質問する。

図 令和8年度から始まる統合準備に関する協議のメンバーはどのようなか。

答

鈴村教育長

統合準備委員会のメンバーは、各学校運営協議会の代表、保護者代表、各学校の教頭、事務局等である。

図 制服は自分にあつたものを選択できることが大切である。中学校、小学校それぞれどのような方針か。

答

鈴村教育長

現在の中学校の制服は、女子はスカートしかない。ジャージの男女の色分けなども今後は配慮すべきと思っている。統合を見直しの機会と捉えていきたい。

図 令和9年に統合する学校がある。余分な費用負担が発生しないように配慮できるか。

答

鈴村教育長

統合しても、現在使用しているジャージや制服の着用を認めていく方針である。



さへき よしのり
佐伯 好典 議員

白川口駅について

現在、白川口駅の駅員配置と売店運営に年間約600万円の一般財源が投じられている。高校生の通学拠点として重要であることは理解しつつも、車社会で駅利用者が限られる中、この支出の妥当性に疑問を感じる。一方で、まちづくり懇談会では水道料金の見直しが見直され、住民負担が議論されている中、まずは行政自らが見直すべき支出や、効率化できる部分の一つとして白川口駅の予算を取り上げ、質問する。

問 白川口駅に係る現在の予算は、町として本当に妥当な支出と判断しているのか。

答

渡口振興課長

白川口駅については、駅そのものを守ることや有人化を目的としているのではなく、通学や高齢者の外出など、町民の「移動の安心」を確保するための最低限の人的配置であると位置付けている。無人駅になっても列車は走るが、定期券の購入や変更、切符購入の補助、不慣れた利用者や高齢者への支援、トラブルや急病時の初期対応など、頻度こそ多くないものの、このような事態をカバーするために駅係員を配置している。令和6年度の実質負担は年間約334万円であり、1日150人前後が利用する公共インフラを支える費用として過大とは考えておらず、妥当な支出であると判断している。



答

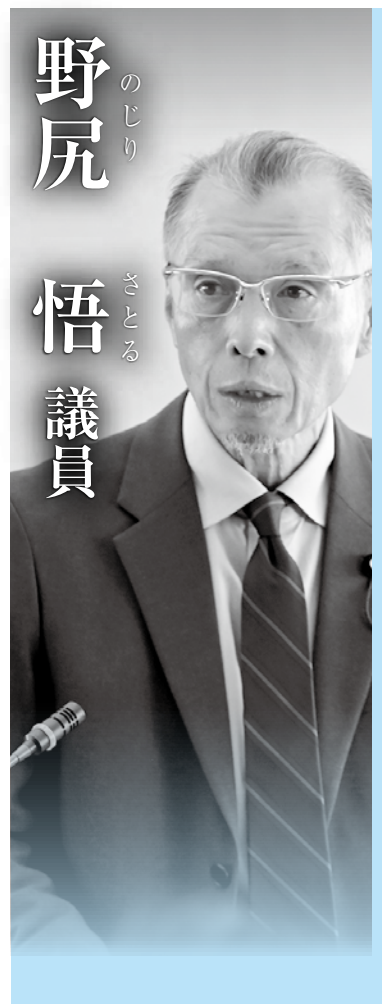
渡口振興課長

問 今後の白川口駅の運営方針とあわせて、交通系ICカード導入や駅体制の見直しなど、利便性向上策の検討状況をどのように考えているか。

交通系ICカード対応や自動券売機、バリアフリー化などの設備投資については、これまでもJR東海に要望を続けているが、現時点で具体的な導入時期は示されていない。そのため、町としては、現在の有人対応の在り方や配置人

数、窓口機能の範囲などを、実際に利用する高校生や保護者、地域住民の意見を伺いながら慎重に見直していく必要があると考えている。あわせて、観光協会が担ってきた売店や案内機能についても、利用実態や売上の状況を踏まえ、見直しを進める。生活交通としての「地域の足」と、玄関口としての「町の顔」という二つの役割のバランスを保ちつつ、将来にわたって維持できる駅体制を目指して取り組んでいく。





のじり
野尻 悟 議員

山間地における 移動困難者への 運動支援について

高齢化の進む本町において、健康寿命の延伸と医療費の適正化は重要な課題である。こうした課題の解消に向け、「移動しなくても健康づくりに参加でき、誰一人取り残さない仕組み」を構築することを目的として、健康づくり施策の導入に対する支援について質問する。

問 本町の高齢化率、平均寿命の現状と医療費の推移の認識を問う。

答 長尾保健福祉課長

全国と比較し、本町の高齢化率は非常に高い。また、令和2年の町統計における本町の高齢化率は44.5%で、令和7年4月には48.8%となり、5年間で4.3%上昇している。国勢調査の平均寿命は男性82

歳、女性87.6歳で、全国と大きな差はない。一方、健康寿命と平均寿命の差は、男女とも県平均より短く、比較的良好な状況である。1人当たりの医療費は全国的に増加傾向にあり、本町においても同様であるが、高齢化の進行に加え、医療技術の進歩など、避けられない要因が影響している。健康で過ごすためには、多くの方に健診を受診いただき、ご自分の身体の状態を知ることから、病気や介護の予防に取り組んでいたきたい。

問 町がこれまで行ってきた健康推進事業についての実績とその効果を問う。

答 長尾保健福祉課長

高齢者の※フレイルを中心にお答えする。町では、国民健康保険を対象とした特定健診や、75歳以上を対象とした「おたっしや健診」を実施し、病気の重症化予防に取り組んでいる。「おたっしや健診」の受診者

数は少しずつ増えているものの、県内と比較すると受診率は低い状況であるため、白川病院や社会福祉協議会と連携し、栄養相談や健康相談、健康指導などを行っている。

運動面では、スポーツリンク白川に委託し、健診会場において体力測定を実施することで、運動習慣への意識づけを行っている。また、地域包括支援センターでは平成25年に「貯筋教室」を実施し、以後はスポーツリンク白川による継続実施につながっており、参加者が楽しみながら自主的に体力づくりに取り組まれている。さらに、令和元年には「茶レンジ体操」を制作し、CCNetで放送するなど、日常的に取り組める運動の普及を図っている。

問 健康推進事業をさらに推進するための課題をどう分析しているか。

答 長尾保健福祉課長

フレイルの予防が重要と認識しており、自分自身が自覚して継続して取り組むことが大切である。親しい仲間とつながりを持ちながら、楽しく身体を動かす場所づくりが大切であると考えます。

問 広島県北広島町が導入している住民が主体になって自発的に体操や運動に取り組む「健康づくりシステム」について、調査研究は行っているのか。

答 長尾保健福祉課長
情報は把握しており、現在、文献やネット上でその仕組みを調べ始めている状況である。

問 町としてこの「健康づくりシステム」を推進していく考えはあるか。

答 長尾保健福祉課長

システムを調べ始めた段階であり、このシステムが本町の町民性や状況に適するどうか、検証が必要と考える。さらなる調査研究を行い、効果があげられるかどうかの検証を行ったうえで、必要に応じて検討していきたい。

中山間地の課題である「交通不便↓運動不足↓健康悪化↓介護増加」の悪循環を断つためには、「地域集会所や公民館を核にした徒歩圏内の循環型コミュニティを利用した誰でも参加できる仕組み」を構築することが不可欠である。

誰一人取り残さず、住み慣れた地域で健康に暮らし続ける町づくりを実現するためにも、この健康づくりシステムの導入を推進していただきたい。

※フレイルとは

加齢によって心身の活力が低下し、要介護状態に近づく段階のこと。フレイルの予防には、①栄養の改善、②運動の習慣化、③社会参加の促進が重要



さんと
かつのり
三戸 勝徳 議員

地域運営組織の 推進と支援について

著しい人口減少・少子高齢化の中であっても地域が疲弊しないためには、地域活力の創造が不可欠であり、行政との協働により持続可能な地域づくりを展開していく必要がある。今後を見据えた取組みの重要性を踏まえ質問する。

問 行政が描く地域運営組織の具体的なビジョンと、行政として果たす役割について伺う。

答 渡口振興課長

行政が描くビジョンは、地域コミュニティの持続可能性の確保であり、それを実現するための手段のひとつであると認識している。

役割としては、地域と行政が協働できる体制の構築を支援し、適切なサポートを行うことであると考える。

問 町内地域における立ち上げ状況や進捗はどのようなか。また、現状をどう受け止めているか伺う。

答 渡口振興課長

蘇原地区や黒川地区では、地域が抱える課題解決を見据えながら、地域運営組織に関する学びが生まれ、一部では具体的な形になり始めていると伺っている。

現状としては、焦ることなく地域の実情に応じた問題解決の方向性を各地域とともに考えており、今後は地域ごとの状況に寄り添いながら、息の長い伴走支援を継続していきたい。

問 地方自治法の改正により支援策が拡充されたが、その中身とメリットはどのようなものか。また、メリットを生かした具体的な支援策があれば伺う。

答 渡口振興課長

法改正により「地域協働の担い手」として明確に位置づけられ、自治体が支援しやすくなるよう、地方交付税措置も始まっている。

メリットとして、買物支援・空き家管理・見守り活動など、地域ごとに異なる課題に柔軟に対応しやすい環境が整い、地域住民が必要とするサービスを地域主体で提供できる後押しが強まった点が大い。

現在、これらの措置を財源として一連の流れを途切れなく支えるために、新年度予算に向けて支援策を検討しているところである。

問 行政から補助等を受けることで組織として適正な運営や透明性が求められるが、この点についての考え方と、運営に対してどのようなサポートが考えられるか伺う。

答 渡口振興課長

資金の使い方がわかりやすく示

され、誰にでも理解できる状況により、参加意識が高まり協力を得やすくなると考える。また、透明性の高い取組みの積み重ねにより、他地域の刺激となり機運が町全体に広がり地域間の協力関係が生まれるなど、全体への波及効果も期待できると考える。

また、自治協議会や自治会の運営交付金のような仕組みの採用、会計テンプレート提供や事務支援など必要なサポートを行い、誰もが参加しやすい環境づくりを支援していきたい。

問 今後、地域間での情報交換や広域での協力など、町として考えられるイメージを伺う。

答 渡口振興課長

他地区の学びを知る機会や、課題別の意見交換など各地域がヒントを持ち帰る場をつくることで、自然と横に広がっていく流れを後押ししていきたい。

杉山 哉史 議員

すぎやま ちかし



令和8年度予算の 重点と町政運営に ついて

町長就任以来3年8か月が経過し、任期中最後の予算編成の時期となるに当たり、今任期中の町政運営の総括と、新年度予算の重点、今後の町政運営への意気込みについて問う。

問 町の現状に対する認識と、今任期中に特に力を入れてきたこととその手ごたえ、反省点などはあるのか。

答 佐伯町長

町の現状は、あらゆる分野において、その課題は人口減少に起因

するものが一番であると認識している。人口減少を食い止めることは容易ではなく、現状は厳しい状況である。

今任期中には、地域通貨「しらか」の導入や「ワークドット協同組合」の設立など、産業の維持推進に資する事業が順調に運営できている。また、学校統合について現時点での方向を示せたこと、防災面の意識づけが進んだこと、「おでかけしらかわ」を中心とする公共交通の運営などは前に進めることができたと感じている。

一方で、「白川茶」の振興や道路整備、第3セクターの運営、遊休施設の処理など、課題を残すものも多々ある。

問 令和8年度の予算編成に当たり、町長が特に重点的に取り組みたいことは何か。

答 佐伯町長

まず、来年は町制70周年を迎えるので、式典を中心とした各種関連事業の実施を考えている。

また、新庁舎への移転に合わせ、事務の効率化やDXの推進による住民サービスの向上、公共交通で貨客混載事業、医療介護分野での人材確保対策、中小企業や小規模事業者に対する支援、白川中学校体育館の空調設備の具体的な設計などに取り組みたいと思う。

その他、大きな予算は伴わないが、協定締結から15年を迎えた従業員数2600人を誇る大企業「岐阜車体工業(株)」との森林以外の分野での交流、オーガニックビレッジ宣言をした町として、有機農業の推進と有機野菜の活用、夏秋トマトの振興なども進めたいと考えている。

問 町長は、来年8月に任期を迎えるが、引き続き町政を担うことについて、現時点での考えはどのようなか。

答

佐伯町長

町政の舵取りをお預かりしている立場として、まずは目の前の課題に全力で取り組み、任期を全うすることが最優先である。したがって、現時点で次期町長選挙への出馬について、確たる結論を申し上げる状況にない。

今後、町の将来像や進めてきた施策の進捗状況、また、ご支援いただいた皆様の声などを総合的に踏まえ、適切な時期に考えを整理し、然るべき場でお示ししたい。



新庁舎1階 町民課窓口

議会活動報告

意見交換会・研修を実施

10月28日、総務常任委員会協議会を開催しました。はじめに、地域公共交通の委託先である(株)JINとの意見交換会を行い、会社の概要や現在の従業員体制、今後の会社方針などについて説明を受け、質疑を行いました。続いて、議員としての資質向上を目的に、ハラスメント防止研修を実施しました。「職場環境の向上を目指して」をテーマに、加藤行政書士法務事務所代表の加藤博史氏から講義を受け、ハラスメントに対する正しい理解や未然防止の重要性について学びました。



白川町表彰式

11月4日、白川町表彰式が白川町役場で開催され、田口議長と伊佐治副議長が出席しました。当日は、町の功労者表彰が行われ、各分野で功績のあった1団体と町民9名の皆さんに対し、佐伯町長から表彰状の授与と記念品の贈呈が行われました。受賞者を代表して、地方自治功労者として5期20年にわたり町議会議員を務められた渡邊昌俊さんがあいさつされました。受賞された皆さん、誠におめでとうございます。



岐阜県知事と町村議長との意見交換会

11月5日、岐阜県知事と町村議長との意見交換会が岐阜県庁で開催され、田口議長が出席しました。意見交換会では、県内町村が抱える課題などについて意見が交わされる中、田口議長も発言しました。岐阜県知事に対し、各町村の現状や課題を直接伝える大変貴重な機会となりました。



可茂地域市町村議会議員研修会

11月6日、可茂地域市町村議会議員研修会が可児市で開催され、本町からは全議員が参加しました。研修会では、「地方から創る新しい日本の形～安心と挑戦の岐阜県を目指して～」と題して、岐阜県知事による講演が行われました。講演では、岐阜県が進める各種政策について説明があり、その中で、本町の移住・定住対策が先進的な取組事例として紹介されました。



令和8年度町当初予算への要望

11月7日、田口議長と伊佐治副議長が佐伯町長を訪問し、令和8年度町当初予算や今後の各種施策への反映を求める要望書を提出しました。要望書は、各議員から意見を募り作成したもので、これまでの一般質問における提案事項に加え、最近の社会情勢の変化により新たに必要性が高まっている施策などについて、町全体に関わる要望事項として16項目にわたり取りまとめたものです。



東京要望活動

11月21日、町議会議員と事務局長及び町職員1名の計10名で上京し、岐阜県選出の国會議員に対して、地方の発展や本町事業の推進に関する要望活動を行いました。衆議院議員会館では今井雅人議員に、参議院議員会館では渡辺猛之議員、若井敦子議員に対し、町長及び議長の連名による要望書を手渡しました。要望は全19項目にわたり、各項目について本町の現状や課題を説明するとともに、国による支援を要望しました。



衆議院議員 今井雅人事務所にて



参議院議員 渡辺猛之事務所にて



参議院議員 若井敦子事務所にて

社会福祉協議会と意見交換会を実施

11月28日、総務常任委員会協議会を開催し、社会福祉協議会との意見交換会を行いました。意見交換会には、社会福祉協議会から佐藤会長をはじめ9名の皆さんと長尾保健福祉課長が出席しました。社会福祉協議会の現状や課題について、2024年度の決算状況、外国人職員の状況を含む職員体制、ショートステイの現状について説明を受けた後、質疑や意見交換を行いました。



まちづくり懇談会に参加

11月下旬から12月上旬にかけて、町内5地区で町主催によるまちづくり懇談会が開催され、各会場に本町議会の全議員が参加しました。懇談会では、水道料金のあり方や今後の学校再編の方針案など、町が抱える課題について説明が行われました。その後、グループごとに意見交換が行われ、住民の皆さんの声を直接お聞きする貴重な機会となりました。



学校統合建設特別委員会を開催

12月4日・12日、学校統合建設特別委員会を開催しました。会議では、11月10日に起工式が行われた白川町立施設一体型小中学校建設工事について、今後のスケジュールや進め方について説明があり、それらを踏まえて協議を行いました。



小学校交流活動「議会を知ろう」

12月18日、小学校交流活動「議会を知ろう」が議場で開催されました。本事業は、昨年まで実施していた子ども議会をリニューアルする形で行われ、白川・蘇原・黒川小学校の6年生と、佐見小学校の5・6年生の児童が参加しました。当日は、白川町のまちづくりへの提案などについて、各校の代表児童から議員へ2問、佐伯町長へ1問ずつ質問が行われ、会は終始温かい雰囲気の中で進みました。議員や佐伯町長から逆に質問を受ける場面もあり、児童が緊張した表情を見せる一幕もありました。



質問に答える議員



議員からの質問に笑顔で答える児童



CCNetのタイトルコールの撮影

白川町新庁舎竣工式

12月20日、白川町新庁舎竣工式が開催され、本町議会の全議員が出席しました。竣工式では、田口議長が議会を代表してあいさつし、町産材である「東濃ひのき」をふんだんに使用し、伐採から加工、建て方に至るまでのすべての工程を町内で完結させた、「白川の森が息づく庁舎」であることなどを紹介しました。また、午後から行われた内覧会には、町内外から800人を超える方が訪れ、多くの人でにぎわいました。



加茂東部三町村議会議員交流研修会

12月23日、加茂東部三町村（白川町、七宗町、東白川村）の議会議員交流研修会が、白川町町民会館で開催されました。当日は、本町の大型事業である「白川町立施設一体型小中学校」と「白川町新庁舎」について説明を受けた後、白川町新庁舎の見学を行いました。加茂東部三町村議会の議員が情報共有を図るとともに、本町の取組みについて理解を深める機会となりました。



白川町消防出初式

1月5日、白川町消防出初式が白川町町民会館で開催され、本町議会の全議員が出席しました。式典では、田口議長が祝辞を述べ、新年にあたり町民の安全・安心を守る消防団員の皆さんの活動に対し、敬意と感謝の意を表しました。その後、恒例の一斉放水や分列行進を見学しました。



議会の動き(10月23日～1月23日)

10月

- 24日・25日 黒川中文化祭
- 26日 第30回白川町社会福祉大会
白川地区戦没者慰霊祭
- 28日 総務常任委員会協議会
- 30日 白川町介護保険等運営協議会会議

11月

- 1日 政権与党国会議員との意見交換会
第4回白川・黒川音楽祭
- 2日 消防団秋季訓練(5分団)
蘇原地区戦没者慰霊祭
- 4日 白川町表彰式
地方自治連絡協議会
- 5日 岐阜県知事と町村議長との意見交換会
東濃ヒノキ白川市場開市40周年記念式典
- 6日 可茂地域市町村議会議員研修会
- 7日 黒川地区戦没者慰霊祭
議会議員協議会
- 9日 白川町芸能発表会
- 10日 白川町立施設一体型小中学校建設工事起工式
- 12日～13日 町村議会議長全国大会
- 16日 消防団秋季訓練(3分団)
野尻眞氏瑞宝双光章受章感謝の集い
御嵩町町政施行70周年記念式典
- 17日 岐阜県浄化槽連合会主催大会
- 20日～21日 上京要望
- 23日 蘇原地区公民館まつり
- 26日 議会運営委員会
- 27日 主要地方道下呂白川線改良促進期成同盟会
要望活動
まちづくり懇談会(蘇原)
- 28日 第35回白川・東白川地域公共交通活性化
協議会
総務常任委員会協議会
- 30日 白川北地区公民館まつり

12月

- 1日 岐阜県町村議会議長会評議員会
- 2日 まちづくり懇談会(白川)
- 4日 議会議員協議会
学校統合建設特別委員会
- 4日・5日 まちづくり懇談会(白北・黒川)
- 6日 企業の森活動15周年及び遊歩道完成披露式典
- 8日 まちづくり懇談会(佐見)
- 11日 町議会第4回定例会(第1日)
- 12日 予算決算審査常任委員会

12月

- 12日 町議会第4回定例会(第2日)
学校統合建設特別委員会
- 14日 野尻杯少年剣道大会
- 17日 可茂地域一部事務組合議会第2回定例会
- 18日 議会を知らう
- 20日 白川町新庁舎竣工式
- 23日 加茂東部3町村議会議員交流研修会
- 26日 白川町役場庁舎閉庁式
- 28日 消防団年末特別警戒出発式

1月

- 5日 白川町消防出初式
- 11日 白川茶手もみ保存会新年初もみ会
二十歳のつどい～大志式～
- 13日 白川町役場新庁舎開庁式
- 15日 議会議員協議会
- 20日 議会広報編集委員会
- 22日 東濃ひのきと白川の家建築協同組合新年互例会

表紙は語る

表紙の写真は、「旧庁舎の議場での一枚」です。



昭和から令和に至るまで、長きにわたり町政の重要な決定の場として役割を果たしてきた議場が、静かにその幕を下ろすこととなりました。この議場でご活躍された先人の議員各位をはじめ、議会運営を支えてこられた職員OBの皆さま、関係職員の皆さまに、あらためて深い敬意と感謝を申し上げます。

あとがき

いよいよ白川町に新庁舎が完成しました。皆様のご理解ご協力ありがとうございました。

高市早苗内閣総理大臣が就任してから、目まぐるしい速さで政策の数々を打ち出し、衆議院が解散となりました。目を見張っている方もおられるでしょう。経済は上昇傾向を示していますが、一方で生活必需品である物価の高騰が私達の家計を直撃しています。町内で車を所有する方には、朗報である「ガソリン減税」が行われましたが、実際はそれだけの減税では足りず、今後も物価の値上げラッシュとなる見込みです。暮らしには一定の備えが必要ですが、かと言って、どうしても欠かせない医療費や出費があります。町民の皆様方には、なんとか足を踏ん張っていただき、上手にやりくりをお願いしたいと思います。町も一層の努力をして、町民の皆様の暮らしをしっかりと支えてまいります。政治でしかできないことがあるとすれば、頑張りない理由がありません。

白川町議会は、一層、開かれた議会運営を目指して、これからも町民の皆様と共に歩みを進めたいと思います。風通しが良いね、わかりやすいね、とそんな風に言っていただけのような、広報活動に努めてまいります。

この激動する社会の変化に対応するために、ぜひ政治に関心をお寄せください。そして今後とも町政及び町議会に益々のご指導ご鞭撻の程を心よりお願い申し上げます。

梅田 みつよ